

第1回 ふくしま元気トーク まとめ



【開催概要】

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 日時 | 令和4年8月30日(火) 午前10時～11時30分 | | |
| テーマ | 福島を中心地にさらなるにぎわいを！ ～駅前交流・集客拠点施設～ | | |
| 場所 | 福島県立医科大学保健科学部 多目的ホール | | |
| 出席者 | (1) 本杉省三さん (2) 盛藤隆伸さん (3) 紙谷瑞恵さん (4) 渡邊裕樹さん (福島市) | (5) 片岡拓己さん (6) 伊藤にこさん (7) 三笠亜希子さん (8) 矢吹省司さん | (9) 塚原悠介さん (10) 田中やよいさん (11) 斎藤茂信さん |
| | 木幡市長 | | |

【1 市長あいさつ】

今回は福島中心部のにぎわいづくり、特に駅前交流・集客拠点施設、いわゆるコンベンション施設、それに関して意見を交わそうということにさせていただきます。いよいよ駅前の再開発事業がこの7月に始まりました。この施設の狙いは、ここに市内外から人を集めて、その方々がまずは町に繰り出していき、さらに市全域あるいは広域へとまた巡っていただくことで、地域活性化の拠点にしていこうという考えであります。こういう施設ができてにぎわうことで、この福島の町あるいは福島圏域に人が定住していく、より定住が加速していく、そういうような町にしようと思っています。このような施設を起爆剤にして、人が集まることでお店が入ってくる、お店が入ることでもまた人も集まってくるという好循環をつくり出していきたいなというふうに思っております。ただ、我々にとって非常に辛いのは、大きな事業ですから、その間はこの地域、全て現状あるものを取っ払って、4年間は何もない状態で我慢しなきゃいけないわけです。これをまたどうするかというのが非常に大きな課題で、何とか空白期間を持ちこたえるというよりは、むしろこのコンベンション施設ができるまでの助走期間にして、将来を見据えてにぎわいをつくっていきたいと思っています。そのために、もう既にまちなか広場はリニューアルをいたしましたし、まちなか交流館も新設、移転という形にしたりとか、いろんな手を使って進めていこうと思っています。もう一つ、ふくしまにぎわい創出プロジェクトというのをつくりました。これは、町なかを活性化していくのにいろんな人が参画して、そして連携をしてにぎわいをつくっていこうというプロジェクトです。今日は皆さんとこの拠点施設、どんなふうに使っていくか、あるいはその間のまちづくりをどうしたいか、そんなことをお話しできたらいいなと思っています。



【2 主な発言内容】

(1) コンベンション施設を中心とする福島市のにぎわいについて

① 本杉省三さん(福島駅前交流・集客拠点施設ホール設計アドバイザー)

●私は劇場とかホールの研究とか設計に携わっておりまして、策定委員会で話し合われたことが計画の背景として重要であると思います

●皆さんご存じのとおり、中心市街地、駅前の空洞化ということが一つの大きな背景にあります。目的

の場所に来て、それで帰ってしまうという、車社会にありがちなこういった形態をもうちょっと変えていく必要があるというのが重要なまず一点です。

●それともう一つは、文化施設の休館とか老朽化が進んでいまして、福島市公会堂が閉館しております。福島市市民会館も50年以上たって老朽化している状況であります。

●文化芸術が低下しますと、活動が鈍ってきますと活気が生まれてこないという問題。

●ちょうど東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から10年目ということで、福島市にしかないこういう10年での象徴的な出来事があります。これが一つ契機になるということはプラスの要素だというふうに考えられます。

●県都としての風格とか自信というものを町としてもう一度取り戻す必要があるということで、それは官庁とか大学が多いですから、人の往来があるということで、それをぜひ生かしていく必要があるんじゃないかと。

●そうした中から3つの柱を立てようということで、1つが市民文化活動の場所です。2つ目が、駅前の利便性を利用したコンベンション施設を、機能を持とうと。3つ目が、それらによって町のにぎわいを創出していこう。それはつまり、町を楽しむ、人々が町を回遊していく、そういった人の流れをつくり出す必要があるだろうということで、この施設が役に立つのではないかと。

②盛藤隆伸さん（福島駅前商店街、(株)ぶらっとWeb放送代表取締役）

●私は、福島駅前通り商店街の振興組合の一員、ふくしま情熱通り実行委員会という歩行者天国の実行委員も務めております。市長が早々に、ウィズコロナ、イベントも積極的に参画するんだと宣言していただいたおかげで、イベントというのは非常に今盛り上がっております。功を奏しているという感覚がございます。

●4年ぐらい工事現場になるということで、学生さんだけでおおむね1,000人ぐらい、これから工事現場になるに伴って解体工事で1日500人ぐらい、建設工事で1日1,000人ぐらいの人が働くと、これから莫大な人が駅前に増えてくるんだよというのがいま一つ市民の方々に伝わっていないなということがあるので、これからそういう町なか、よくなりますよとか、ぐぐっと変わりますよという発信をいろんな方法でしていかなきゃいけないのかなというふうに思っております。それが一番の課題だなというふうに感じています。

③紙谷瑞恵さん（福島商工会議所青年部 (株)ユアライフ専務取締役）

●私は福島商工会議所青年部から参りました。年間通して町なかで名誉市民の古関裕而さんの楽曲を披露したりとかという事業とか、市民の皆様が楽しめる食のイベントとかという企画をして、町なかを活性化していきたいというふうに取り組んでおります。

●コンベンション施設に求めることは、同僚からこむこむにはイベントがいっぱいあってお子さんと一緒に行くけれども、そこへ車で行って車で帰ってきちゃうという意見がすごくいっぱい出てきてまして、町なかに繰り出すという行動がなかなかないんだなというふうに思います。

●小さい子供と一緒に食事をして、子供を見守りながら過ごせる場所がなかなかないんですという話とか、町なかにも小さい子供が遊べる、特にカラフルな遊具があるような、子供の目を引く、そういう遊び施設がある、親が安心して見守れるような施設があれば、町なかに繰り出すきっかけになると思いますがというお話をいただきました。

④渡邊裕樹さん（福島市旅館ホテル協同組合 (株)ザ・ホテル大亀取締役社長）

●ホテル業界からの懸念というかちょっと心配しているのが、すてきなビルが出来上がったとしても、福島空港などから2次交通並びに福島発着便の拡充というものがなければ学会とかその他催事などの誘致も厳しいのではないかと意見が出ておりました。

⑤片岡拓己さん（福島県立医科大学保健科学部 学生）

●ふだん駅前のこのキャンパスを使っている学生として、この駅前キャンパス使っていて一番困っていると思うのが食事の面です。

●このキャンパスに学食がないので、お昼ご飯を食べるときはコンビニやスーパーでお弁当を買って食べていたりとかしていたんです。

●もし新しくできる建物の中に学割が効く飲食店だったりフードコートがあれば、学生同士でお昼に抜けて食事をしたり、空きこまがあれば、そのままお買物もしたりとかもでき便利だと思います。

⑥伊藤にこさん（福島学院大学 学生）

●福島駅前の大学で生活する学生の代表としてお話しさせていただきます。

●福島駅前にはにぎわいが必要だと言われても、実はぴんときていないところがあります。福島駅前の再開発エリアは私やほかの学生たちにとって通り過ぎるだけの場所でしたので、工事中にまちからにぎわいが失われるという危機感も特にありません。

●工事中であっても、そこにはまちが生まれ変わるわくわく感があると、むしろ再開発工事をポジティブに捉えている学生もいます。

●この視点を取り入れて提案があります。工事の様子を市民や特に子供たちや若い世代に積極的に発信する広報プロジェクトを立ち上げてはいかがでしょうか。具体的にはフェンスを透明にしたり、工事現場に子供たちを招いて見学会を実施したりすることです。その様子を広報紙やウェブサイトで発信することで、効果が得られるのかなと思います。ぜひ私たち学生や子供たちがわくわくするような再開発の工事現場が見られるとうれしいなと思っています。

⑦三笠亜希子さん（東日本旅客鉄道（株）仙台支社 福島駅副駅長）

●工事見学の話がありましたが、JRの山形新幹線のアプローチというのを建設中で、2026年度を目指しているんですけども、その工事を定点撮影みたいな感じでやって、実は商品にしたんですけども、結構すぐ売り切れました。今JRに乗っている方も少ないんですけども、興味を持ってもらうということで、これができたらどうなるんだろうというところをやっぱり市民ならず東京とかからも実際にお客様が来て、興味を持って見てくださったというのがあります。

●福島駅は今お客様がどういう動きかという、新幹線を見に来るお子様が土日たくさん来ております。各列車で二、三十人必ず見ているような状態があります。帰りにどこに行くのかなと思って見ていくと、東口になかなか抜けていけないというのがあるので、もしかすると新幹線見て、じゃ駅前でご飯食べて帰ろうかというような流れもあると思うので、駅前で遊んで帰れるような、そういった雰囲気をつくれればにぎわいと言えるのかなというふうには私は思います。

⑧矢吹省司さん（福島県立医科大学保健科学部 学部長）

●私からは学会についてお話しさせていただきます。

●このコロナになって、対面は全くなしでオンラインだけというふうになりました。2年ぐらい過ぎて、だんだん現地開催も行われるようになってきたんですが、オンラインのよさも皆さん分かってきて、オンラインも残っています。ハイブリッドというようなやり方をやっています。ただ、これはすごいお金がかかるということで、なかなか皆さんちゅうちょしているところです。私も学会をコラッセふくしまで行うんですが、現在、対面での現地開催プラス録画したものを学会の後オンラインで好きなときにオンデマンドで見られるようなことということで考えています。オンラインのよさというのを既に先生方も気づいて、これはなくすことはもうできないと思います。

●私の提案のとしては、録画をすとかオンラインで配信すとか、そういうことが容易に行えるような施設、設備というのがあると、学会を行う上では重宝がられるんじゃないかなというのを今考えております。

●福島駅前でこういう学会ができるというのは、交通の便からもとってもありがたいことだし、参加者にとっても喜ばれます。ただ、福島市というのは東京から1時間半で来られてしまいますので、そして仙台にも30分ぐらいで行けてしまうので、ある意味便がよ過ぎるために泊らないんじゃないかというか通えてしまうという、そういう特徴があります。学会ももちろんそうですが、開催する福島市と前もって何か泊ってもらうための工夫というのをする、あるいは泊った後こういう福島ならではの観光とか、そういうのを何か組み込んでおくとか、何か滞在してもらう理由をつくるというか、そういう楽しみをつくるということがあってもいいのかなというふうには思っております。

⑨塚原悠介さん（タウンミーティング参加者代表 （有）大野屋代表取締役）

●魅力を町に持たせるために必要なことで、以前読んだ本にあったんですけど、『その地域の魅力は

その地域を愛してやまない地元民の総数で決まる』と書いてあったんです。意外とちょっと外れた国道の向こうのすごくおいしい飲食店とかというのを知らないんです。それは店側の発信もあるかもしれませんが、あとはいろんな要因はあると思うんですけれども、情報をつかみに行っていないのかもしれないですし、すごくもったいないなと思うんです。

●若い方が魅力のあるお店、ローカルなラインに行ってもらって、この町というのはいいなと思って、この町で就職して生きていきたいと思えるような子が増えていけばおのずと税収は増えるでしょうし、そういうところというのはどんどん投資をして、町というのは大きくなっていく。それがまず一歩になるんじゃないかなと私は思っております。

⑩田中やよいさん（タウンミーティング参加者代表 （有）福島レジスター代表取締役）

●建物から町なかへ流れる仕組みとして、福島市には誇れる競馬場がございます。競馬場でもうけられた方が福島駅前で大にお金を使っていたために、今シャトルバスとかがあると思うんですけれども、タクシーをぜひ使っていただきたい。タクシー料金の見直し、それをぜひ福島市から働きかけをいただきたいなど。新幹線が止まる駅でカードが使えないタクシーが福島には多いです。ですので、タクシーにカードの機械を入れていただけるような働きかけをお願いしたいなと思っております。

⑪斎藤茂信さん

●現場の銀行員の立場でいろいろお話しさせていただければと思っています。再開発事業には非常に大きく期待しています。

●まずコンベンション機能を持った複合施設で呼び込んだ人たちをどうやって福島のほうでお金を落とすとしていただくかということが重要なんだろうなと思っています。

●課題としては、先ほどいろいろ出てきたと思うんですけれども、回遊性向上の仕組みづくりが重要なんだろうなと思っています。行ってみたいと思う場所をつくって、磁石のような場所をつくって、そこに人を集めることが重要なんだろうなと。それが市内あちこちでできれば、人がそこに行って、お金を落とすとしていただくような形になったらいいんじゃないかなと思っています。

●福島市さんのほうで今やっていらっしゃる周遊スポット魅力アップ支援事業や町なか再生リノベーション事業等は非常に有用だと思っていますので、事業者の皆さんにも活用を促していきたいなと思っております。

●バザールのものをいろいろあちこちに、もしも空室利用とかできたらいいんじゃないかなとは思っています。チャレンジショップとか、そういうのを休日とかも利用しやすいような仕組みをつくって、新規創業棟や商売を活性化するような仕組みをつくっていただければいいんじゃないかなと個人的には思っております。

市長 ○福島市公会堂、福島市市民会館は市民センターという名前で市民利用をぐっと増やしなから今年度からもう着工するというにしています。いろいろと再編統合しながらまちづくりに取り組んでいるところです。

○かなりの工事関係者とか、そういう方いらっしゃるんです。それを考えると、いかにそういう人たちの例えばランチとか、お弁当もありますけれども、それだけでもすごい需要になりますから、そういう情報を市民の皆さんあるいは事業者の皆さんにお伝えをして、その上でそういったターゲットに何ができるのか、あるいはその人たちにどんな参加をしてもらえるのか、非常に新しい視点だったと思います。

○イベントといっても、どうしても熱心な方のゾーンに偏っちゃっている感じがするんです。特に小さいお子さんとか若い人たちの参加がやっぱり少ないです。だから、若い人はあまり町なかに来たという経験がない。来る習慣がないんです。それを何とか変えたいなと思っていて、その点では、小さなお子さんなんかを集めるような仕掛けを考えたいと思います。

○学生さんが福島駅前に入ってくると、昼間はやっぱり学生をかなり意識したお店というのが出てくるし、そのときにまた学生さんがSNSなんかで発信してもらおうと町への誘導につながるんじゃないかという気もしますので、ぜひそういう動きをつくってもらえるとありがたいなと思います。

○混雑とにぎわいは違うとか、学生さんにとってみると駅前、通るところだったから、何か別に今までと変わらないという、ある意味新しい視点かなというふうに思います。工事の様子を発信するプロジェクトなんかも、フェンスをうまく活用しようというのは私も参画したある場で話が出てある程度まとまったんですけども、関係者と相談して検討したいと思います。

○まちなにぎわいにとって大事なものは、実はここに住む人なんです。だから、町なか居住とか、そういうものを今進めていて、シェアハウスもそうだし、マンション建設なんかも、市としては、まず人口定着のためには進めなきゃいけない。空き家にしても、町なか居住というのをまた一つ進めることで、ふだんそこにいる人が増えるということが非常に重要なことというふうに今思っています。

○オンラインの設備とかそういったものをつくると。我々もそれはやらなきゃいけないと思っています。これだけITが発達すると、そんなに大規模なハード、備付けみたいのがなくても、着脱式とか、そういうのもどんどん、十分大丈夫なのかなというふうに思っています。その点ではそういう柔軟な使い方も含めてやっていけたらなと思っています。

○宿泊の工夫とはまさにおっしゃるとおりで、ユニークベニューというんですけども、ここだったらこういう特別なものができますと。学会で何か会員を集めるにしても、いわゆるホテルの一室でやるわけじゃなくて、例えばうちだったら福島市民家園の旧広瀬座でパーティーがやれますとか、そういうのをメニュー化しておく、やっぱりそれ自体が非常に大きな魅力になるという話も伺ってまして、こういうのをどんどんつくっていかうと思います。あと競馬場なんです。貴賓室でもって競馬場の全景を見ながらやるとかいうのもなかなかほかでは経験できないことなんで、そんなことも今考えながら進めています。

○本当の地元の人と、それからよそから来た人間がうまくミックスされるといろんな情報が拡散されて、攪拌されて、みんなよさが分かるという面があるので、その点では福島はもっと地元外の人を呼びよせて、その人がうまく動けるような、あるいはもっと交流できるような形に持っていかうともっといいのかなと。

○市で新しいビジネスモデル創出事業というのをつくって、コロナの初期からデジタル化をお勧めしてきたんです。先進的な取組とか世の中の流れを先取りするような取組というのがなかなか広がらないなと思ってそこは経済界などと一緒に取組を進めたいなと思います。

(2) コンベンション施設ができるまでの賑わいについて

① 盛藤隆伸さん

●まちなか広場でお弁当屋さんを出して食べていただけるような仕組みというのを考えてやっております。そこに授産施設だったりとか、あとは町なかで夜のお店を昼間も使えるようにとか、そういう形で何とか1年、2年ぐらいで皆さんにちゃんとお昼ご飯が提供できるような場所を考えてやっというようなことを今計画しています。

② 本杉省三さん

●地方都市のフェスティバルで歌舞伎を興行していました。そこは温泉街なので、スタッフの方や出演者の方たちに無料の温泉カードを配り、温泉街のどこの温泉でもこれを持って行けばただで入れますというのをやっていたんです。それはすごくある意味では効果があって、スタッフの人や出演者、芸術家の人たちを通じて、あの温泉はよかったとか、こちらの温泉のほうがもっと良かったとか、いろいろな関係者の中での口伝えが、口コミがその中で広がって、それがさらに東京とか、あるいは外国から来ている人もいましたけれども、広がって行って、温泉の宣伝効果というのはすごく広がったように思っています。

●もう一点、今のお話を聞いていて私自身も感じるのは、食文化というのはすごく大事で、ユネスコにも食文化というのは認められていますから、これはやっぱりまちづくりにとってとても大事だと。温泉はあるけれども、食で、これぞ福島というのがないと、それこそ仙台に行かない、あるいは東京に戻らないでここでぜひ食べていこうという人がもっともっと増えてくれると思うので、そういったものがあ

るといいと思います。

●もう一点は、芸術文化のリーダーを育ててほしいと。そうすると、リーダーを中心に広がっていきますので、行政の仕組みとしてはいっぱい手を広げるのは大変なので、ぜひリーダーになる人を育てる、そういう仕組みづくりをしていってほしいなというふうに思います。

市長

○町なかの活性化については、にぎわい創出プロジェクトというのをつくって、みんなに集まってもらってイベントをやる。それから、今話が出た空き店舗のリノベーションとか、あるいは家賃補助を市が手厚く今やっています、それで店を呼び込むとか、こういう取組をしています。

○町なか居住という点も進めたり、あと町なかでは今クリエイターなんかを呼ぶべく、空き店舗に、単に店舗だけじゃなくて、むしろクリエイティブな活動をする人、NPOでもいいんですけども、そういう人が集まることでまた何かいろいろな様々な交流なり活動が活発していく。そんなことも今、推し進めています。

○まちなか広場でよく屋根の下のテーブル使っている人たち多くなったんで、そういうのを使えるとなると、また我々も増やして楽しめるようにはできるかなとは思っています。

○ロケツーリズムをやっている、歌舞伎とかになるとある程度舞台ができないとできませんけれども、ロケツーリズムの場合は今あるものをうまく使えばいいので、最近話題になったアライブフーンというのも福島市でもロケやられていました。今後も市民が参加し、かつそこでにぎわいの場というのをつくっていきなと思っています。

○ほかで何とかの食の祭典みたいのをやっているケースが多いんです。確かにその点で言うと、福島の今のイベントというのはどちらかというところでも小っちゃく閉じ籠もるといって、細分化されたようなイベントが多いんです。そこが私もちょっと気になっていて、だからあまりよそから人が来ないです。自分たちが楽しむのも大事なんですけれども、駅前イベントは本来それじゃいけないと思うんです。その点では、よそからも注目されるような形に持って行くという点で、また考えさせていただければと思います。

(3) コンベンション施設ができた後に向けた取り組みについて

① 渡邊裕樹さん

●宿泊施設関係からのお願いでもあるんですけども、福島市からの情報提供というのが非常に不可欠で、旅館ホテル協同組合やホテル連絡協議会などが窓口になりますので、コンベンションホール等で行われる会合があった場合、いついつ、こんなときに、この日に何人ぐらい来ますよというようなことを教えていただければ、各ホテルさんや旅館さんでの飲食パックのプラン等々もそうなんですけど、また飲食ができるスペースを持っているホテルさんや旅館さんの場合には、そのときに合わせたサービスをご提供できる機会になるのではないかなと思いますので、直接この旅館ホテル協同組合とか福島市ホテル連絡協議会のほうにすぐ連絡をいただきたいなというふうに思っております。

② 矢吹省司さん

●学会に集まる科学者にとっては、東日本大震災あるいは東京電力福島第一原子力発電事故というのがもうずっと頭から離れないし、そこに興味を持っています。10年以上たってなかなか話題に乗ることは少なくなってきましたが、福島市として何かそれを復興も含めてアピールできる場もつくれたらいいと思っていました。

③ 本杉省三さん

●大事なと思うのは、町と施設がどうつながるか、町にどう広がっていくかということで、それにはもう本当に町の方たち、特に商店の方たちに協力してもらえないと思うんです。行政がどうこうというのももちろんありますけれども、やっぱり民間の方たちが手を携えてアイデアを出していくということがすごく大事で、それをどう行政が支えていくか、あるいはそこをちょっと押し出してやるかということだろうなというふうに思います。個性的な町にしていくということは非常に期待されていると思いますし、ほかの都市の名前を知らなくても、福島の名前を知らない世界の人はいないというふうにも言われています。もう10年たちましたけれども、それでもそのとおりだなというふうに思います。数年後

に新しいこの複合施設が駅前に生まれることで、町の人々そして市民の皆さんが生き生きとするような、そういう町にぜひなってほしいなと思います

市長 ○市では、コンベンション施設ができる前に管理運営主体を決め、そこが3年ぐらい前からお客さんを集め始める。だからこそ逆に、3年前ぐらいにこういうことを我々は提供できますとか、そういうのも決めて宣伝していかなくちゃいけないわけです。そういう準備を進めています。

○学会を設定するからには、決めてもらう段階で、ホテルはこれぐらい確保するというふうにしないと多分できないと思うんです。その点では皆さんとの連携は大事ですし、我々もコンベンションを進める上で、関わる人たちを集めて、それで情報共有をすると。民間の皆さんにお願いするんですけども、我々も提供はするけれども、一方で、皆さんも常に取りに行く、あるいはそれでもって関心持ってやってもらうというので全然コミュニケーションが違ってきますので、そういうことがお互いできるような体制をつくるようにしていきたいと思います。

【3 まとめ】

今日いただいたご意見を十分踏まえまして、これから行政としての取組も積極的にやってまいりますし、何よりも大事なのは、関係する皆さんがいかに動けるかということだろうと思います。

その点では、皆さんが動けるようにいろんな情報をお伝えしたり、見通しを示すといったことをしっかりとやっていきたいというふうに思います。これからのまちづくりで言うと、大きな課題は今度駅との関係になってまいります。JRの駅舎ビルの改築をお願いして、またこれもまちづくりと連携した形で改築をしていただくということをお願いしていますし、将来を考えると、医療あるいは介護のコアワーカーとか関連職種というのをもっと確保していかなくちゃいけない。これからの時代、やはりそういった人材が不足するんです。そのためにも、それらの関連の専門学校などを、あるいは情報化であれば、私も情報化を中心とした創業者、それに関連するようなデザイナーとか、そういった職種の人というのももっとも必要になってくるんだろうと思います。こういうものをさらに呼び集めるべく動いていきたいと思っています。そういった構想にあるということをお含みおきいただいて、これからも福島のみちづくりにいろんな面で参画していただければというふうに思います。

本当に今日はありがとうございました。

